

第3回審議会での意見交換の概要について

※ページは第3回【資料2】のもの

	主な内容
会長	・ 昭和平成でなく西暦で表記するか検討 ・ p14～15通学路の整備を教育環境に入れては ・ p15吸収合併も新設もあるので統合校という表現はいかがか ・ p16中学校で4～5学級なら地域性を鑑みて検討 本納中はなくなると厳しい
副会長	・ p14避難所という言葉は大事だし残してもよい ・ まずは現状をわかってもらい、それを解決するための方法という資料 短くまとめて ・ p15統合校という言い回しでも構わないが中身が大事 ・ 人数が少ない所の声など、切実に考えてもらう呼びかけの資料 ・ 地域性を考えるのは大事
委員	・ 案ですべて網羅されている ・ 現実はどうだからこうするという細かいところまで出してしまってもよい ・ p16複式学級は速やかに統廃合、全学年1クラスの学校は将来を視野に入れて検討していく
委員	・ p6～7校舎が築何年とかのデータ ・ p9～10地図に縮尺を入れる、通学路は次の段階か ・ p15通学手段に安全性も 今まで言っても直っていない ・ p7で部活動の現状も入れる 部活は子どもにとって大きい、勉強だけなら小規模でもよい ・ 地域を鑑みては必要、周辺部はなくなって中心部しか残らない ・ 小中一貫は可能性として出すべき
委員	・ p14避難所はカットしてもよい 学校を通常の状態に早く戻す 運営は自治会と学校で相談 ・ p14学校施設及び跡地の利活用 施設という言葉を残す ・ 1学級人数の適正人数(上限でなく)はあるのか ・ p15統合校の環境の充実を、学校づくりなどの表現にしては ・ p16文科省手引に沿って記載すべき
委員	・ 1学級人数の上限だけでなく、どの程度が理想的かという考えは持ったうえで議論すべき ・ p14再編にあたっての配慮で、一番上に地域コミュニティや避難所があるのはいかがか
委員	・ 子どもにも親にも期待できるものにする 親の視点を大事に ・ p15統合校をとって教育環境の充実では
委員	・ 小中一貫教育導入の検討 新しい試みにより可能性を見出す ・ p15統合校の教育環境の充実としては ・ 小中一貫校の導入効果を調査してはどうか
委員	・ p14避難所は学校跡地の活用方法の中に文言を入れてカバーできる、削っても可 ・ 使用する校舎 多い方にただ寄せるのではなく安全性なども考慮 ・ p15適正規模の維持で、上限に合わせるのではなく、それを超えて複数学級になるように ・ p14(1)で教育は十分述べている 地域の文面も少しは残すべき ・ p15統合校でない方がよい ・ p16文科省の手引のとおり 複式学級を優先 ・ 小中一貫の検討は再編と同時に 無駄にならないよう
委員	・ p14他の計画の説明がほしい ・ p14再編にあたっての配慮に、情報の積極的な提供・共有・可視化などを入れる
委員	・ p15交通手段やスクールバスは絶対 最初から載せた方がよい
委員	・ 緑ヶ丘小と西陵中のアンケート結果 やむを得ない状況を住民に周知 ・ 避難所の観点から、多い方に寄せるだけでなくどちらの校舎が良いか検討 ・ p15適正規模の維持で在籍人数の検討を せめて複式学級は解消 ・ p16複式学級の場合は再編を検討すべき
事務局	・ 小中一貫教育の検討についても入れたい ・ p14行政側の意見として他の計画との整合を入れた ・ p16学校名はあえて入れていない⇒入れなくてよいのではとの意見 ・ 地域性により小中一貫も検討が必要 検討する場合は実施計画で載せる